

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	5	単位数	4
教科	英語	グループ名	Sグループ		
科目等名	コミュニケーション英語Ⅱ				
ねらい	コミュニケーション英語Ⅰの基礎の上に、総合的な英語力の向上をはかる。				
担当教員	増澤 智恵				
年間授業時数	140時間				
使用教科書	MY WAY English CommunicationⅡ (三省堂)				
副教材等					

学 習 計 画

	月	単元(題材)名	指導 時数	主な学習内容、ねらい(評価の観点)	指導の工夫 配慮事項
前期	4	Lesson 1 Pictograms	1 2	SV0 / SVC / SV0(0=if節) / SVC (C=過去分詞)	ICT 機器を活用し、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。個々の理解度や興味・関心の度合いにあった教材を作成し、より実践的な力を図る。
	5	Lesson 2 A New Way to Clean Up the Ocean	1 2	SV0102(02=that節、what節/if節) / it seems that ~	
	6	Lesson 3 Cuba	1 4	It is ... to 不定詞 / It is ... that ~ 形式主語 / 形式目的語	
	7	Lesson 4 The World 's Poorest President	1 1	知覚動詞 SVOC(C=動詞の原形、過去分詞) / 使役動詞 SVOC(C=過去分詞) / S help 0+動詞の原形	
	9	Reading 1 Lesson 5 Eye Contact	1 4	関係代名詞 / 前置詞+関係代名詞 / 関係代名詞・関係副詞の非制限用法	
後期	10	Lesson 6 A Space Elevator	1 4	現在完了形 / 現在完了進行形 / 過去完了進行形 / 未来進行形	ICT 機器を活用し、生徒が主体的に学習に取り組めるようにする。個々の理解度や興味・関心の度合いにあった教材を作成し、より実践的な力を図る。
	11	Lesson 7 An Encouraging Song	1 6	助動詞 / 助動詞+have+過去分詞 / wouldを使った表現 / 完了不定詞	
	12	Lesson 8 Language Contacts	1 2	仮定法過去 / 仮定法過去完了 / ifを使わない仮定法 / no matter + 疑問詞	
	1	Lesson 9 Charles Chaplin	1 2	分詞構文(現在分詞、過去分詞) / 完了形の分詞構文 / 付帯状況の with	
	2	Lesson 10 The Five -story Pagoda of Horyuji	1 3	同格の that / 倒置 / 省略 / 強調構文	
	3	Reading 2 1年のまとめ	1 0	SV0 / SVC / SV0(0=if節) / SVC (C=過去分詞)	

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	英語の語彙、表現、文法などについて理解を深めている。それらの知識を、目的や場面、状況に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	英文を読み、情報や考えを整理し、その概要、要点、書き手の意図などを的確に理解したり、適切に表現したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	英語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

- (1) 授業における姿勢 (2) 小テストの結果 (3) 定期考査の結果 (4) 課題提出

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	5	単位数	2
教科	国語	グループ名	S 1 グループ		
科目等名	現代文 A		S 2、G 1 グループ		
ねらい	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深める。生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
担当教員	吉野 美保				
年間授業時数	70				
使用教科書	大修館書店 現代文 A				
副教材等	大修館書店 現代文 A〔改訂版〕学習課題ノート				

学 習 計 画

	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容、ねらい(評価の観点)	指導の工夫 配慮事項
前期	4	●将来を考える 「きっと叶いますよ」	7	・漢字の読み書き 語句の意味と用法 随想の特徴 ・人物・出来事・心情について読み取る。 ・心に残った人物について(作文)	・ブラズマディスプレイを活用し、適切に視覚的情報を提示する。 ・単元の終わりに、教材に関連する本を紹介し、読書に親しむ態度を涵養する。
	5	●小説を楽しむ ざしきわらし	7	・漢字の読み書き 語句の意味と用法 背景知識を得る ・小説の設定、展開を捉え、人物や出来事について読み取る。 ・筆者の他の作品を読み比較する。	
	6	●文化の理解 和の思想、間の文化	7	・漢字の読み書き、語句の意味と用法 背景知識を得る ・まとまりを捉え、見出しを付ける。 ・和と間の関係性について説明する。	
	7	●自然を見つめる ウサギの耳はなぜ長い?	7	・漢字の読み書き、語句の意味と用法 ・共進化とは何かを読み取り、説明する。 ・生物の生態に関する本を読み紹介する。	
	9	●言葉と文化 排球、そして千利休	7	・漢字の読み書き、語句の意味と用法 ・筆者の言葉に対するものの見方や考え方を理解する。 ・カタカナ語と和語、漢語を比較し印象の違いを説明する。	
後期	10	●詩歌を味わう ●社会で生きる 夢を建てる人々	6	・繰り返し読む、暗唱することを通して詩歌を味わう。 ・近代の詩歌の特徴について理解する。 ・漢字の読み書き、語句の意味と用法	・ブラズマディスプレイを活用し、適切に視覚的情報を提示する。 ・単元の終わりに、教材に関連する本を紹介し、読書に親しむ態度を涵養する。
	11	●社会で生きる 夢を建てる人々	6	・特徴的な構成について理解し、その効果を考察する。 ・「夢を建てる」とはどのような意味か筆者の意図を考察する。	
	12	●社会で生きる 幸せの分量	6	・漢字の読み書き、語句の意味と用法 ・現代社会に対する筆者の問題意識を文中から読み取る。 ・筆者の考えについて自分の考えをもち、表現する。	
	1	●小説に親しむ 山月記	8	・漢字の読み書き、語句の意味と用法 背景知識を得る ・冒頭の文章を繰り返し読み暗唱する。 ・小説中の情景、人物、心情などを適切に読み取る。	
	2	●小説に親しむ 山月記	8	・小説中の情景、人物、心情などを適切に読み取る。 ・小説における「月」の意味を考察する。 ・小説中の人物にあてて手紙を書く。	
	3	●漱石・鴎外の世界 高瀬舟	7	・漢字の読み書き、語句の意味と用法 ・小説中の情景、人物、心情について読み取る。 ・作者及び作品の文学史上の位置付けを理解する。	

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	語句の意味や用法を正しく理解し、文中で適切に使いこなすことができる。
思考・判断・表現	文章を正しく読み、自己や他者との対話を通して理解を深める。また、思考した事柄を適切に表す力を身に付ける。
主体的に学習に取り組む態度	文章を読み、自ら問いを立て探求しようとしている。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

- (1) ノート、プリントの点検及び確認
文中の漢字を正しく読んだり、語句の意味や用法を理解したりしている。
- (2) 行動の観察及び記述の確認、分析
文章に即して内容を読み取り、自分の考えを筋道立てて伝えている。他者の考えを受けて自分の考えを広げたり深めたりしている。
- (3) 行動の確認及び記述の分析
学習した事柄に対して感想をもったり、分からなかったことを自ら調べたりしようとしている。

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	5年	単位数	2
教科	国語	グループ名	Sグループ		
科目等名	国語表現				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」の学習をバランスよく取り入れ、実践的なコミュニケーション学習を中心に、適切に表現する力を育成し、伝え合う力を高める。 ・思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現する態度を身に付け、社会性を高める。 ・入試小論文、入試志望理由書を作成する基礎力を習得する。 				
担当教員	山崎 亜矢、坪田 愛子				
年間授業時数	70時間				
使用教科書	「国語表現改訂版」(教育出版)				
副教材等	「国語表現演習ノート改訂版」(教育出版)、「現代キーワードファイル」(第一学習社)、 「現代を知るPlus」(第一学習社)、「チェック&ワーク」(第一学習社)、 「小論文チャレンジノート」(第一学習社)、国語辞典、自主作成プリント				

学 習 計 画

	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容、ねらい(評価の観点)	家庭で学習する内容	指導の工夫配慮事項
前期	4	文章表現の基礎	3	<ul style="list-style-type: none"> ・質問して当てる ・他己紹介をしよう ・表記のしかた ・語句の用法と文のくぎり方 ・小論文 	身体を使って情報を伝える 質問をして相手の考えを推測する 表記のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的情報を効果的に用いる。 ・課題への取り組みについて、適宜個別に対応する。 ・適宜補助教材や自作プリントを用いながら授業を進める。
	5	文章表現の基礎 小論文Ⅰ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・文章のリフォームへ推敲へ ・わかりやすい説明の方法 ・小論文 	書き言葉と話し言葉の違い 文末の統一	
	6	小論文Ⅰ	9	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を論理的に述べる ・セルフディベート ・文章の「型」と構成ノート ・小論文 	論理的な文章とは 小論文の種類 意見と根拠	
	7	小論文Ⅰ 人とつながる言葉	5	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶と人間関係 ・小論文 	小論文執筆の準備 「根拠」を箇条書きにする 挨拶言葉の使い分け	
	9	人とつながる言葉 面接	8	<ul style="list-style-type: none"> ・待遇表現 ・励ます言葉と受け入れる言葉 ・面接 ・小論文 	適切な敬語表現 傾聴と言葉 模擬面接	
後期	10	言葉遊びと創作	8	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉遊び・漢字パズル ・川柳・俳句・短歌・詩を作る ・小論文 	言葉遊び 川柳・俳句などを味わい、創作する	
	11	言葉を届ける	7	<ul style="list-style-type: none"> ・電子メール ・メモ ・手紙 ・小論文 	メール形式とマナー メモの取り方 手紙の形式	
	12	プレゼンテーションの方法	8	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの技術と実際 ・スライドを使ったプレゼンテーション ・小論文 	情報の視覚化の方法 パワーポイントを使ったプレゼンテーション	
	1	小論文Ⅱ	7	<ul style="list-style-type: none"> ・要約の方法 ・小論文 	要約のポイント 課題文を的確に把握し、意見を述べる	
	2	小論文Ⅱ 話し合いの方法	6	<ul style="list-style-type: none"> ・データ型小論文の実際 ・ブレインストーミング ・小論文 	目的による表・グラフの使い方 データを読み取り、論点を見つける ブレインストーミングの留意点	
	3	話し合いの方法	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベートの方法 ・小論文 ・意思決定・合意形成のための会議 	ディベートにチャレンジ 会議の手続きと原理	

評価の観点及び評価方法

評価は、次の4つの観点から行う。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・表現に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けることができているか。 ・特に、社会事象に関する漢字や語句に対する理解を広げることができているか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読むことによって、より適切な表現をするために、自分の考えをまとめたり深めたりすることができているか。 ・様々な文章を読み、理解した内容を自身の言葉で表現できるか。 ・自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて効果的に話したり的確に聞き取ったりしているか。 ・自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、論理的な文章を書くことができているか。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・表現に対する関心を深め、積極的に表現するとともに、伝え合おうとしているか。 ・課題に積極的に取り組み、また、人の発言をよく見よく聞き、自身の考えを発言しようとしているか。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

- (1) 定期考査
- (2) 課題・提出物(提出状況、理解度)
- (3) 学習状況および授業への取り組み(学習活動への参加状況)

令和4年度東京都立中央ろう学校 高等部シラバス

学 部	高等部	学 年	5年	単位数	4
教科	数学	グループ名	Sグループ		
科目等名	数学II				
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・数学Iで行った整式の演算に対する理解を深める。 ・様々な関数について理解し、グラフが描けるようにする。 ・微分法、積分法について、関数値の増減や積分と面積の関係を理解する。 ・習得した知識、技能の活用を通して数学的見方や考え方ができるようになる。 				
担当教員	遠田 将人 富永 佑志				
年間授業時数	140				
使用教科書	新版数学II/実教出版				
副教材等	アクセスノート数学II/実教出版				

学 習 計 画

	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容、ねらい(評価の観点)	指導の工夫 配慮事項
前期	4	いろいろな式の計算	12	二項定理、整式の除法、分数式。 3次式の計算や二項定理を利用し高次式の展開を理解する。 整式の除法、分数式の計算方法を身に付ける。	主要な用語や公式については、練習問題を実施することで理解度を確認しながら進める。
	5	複素数と方程式	13	複素数、2次方程式、因数定理、高次方程式。 実数から複素数の範囲まで拡張された数について理解する。 剰余の定理、因数定理を使用した高次方程式の解き方を身に付ける。	
	6	等式と不等式の証明 図形と方程式	14	等式と不等式の証明、点と直線の方程式。 恒等式の意味や性質を理解し、等式、不等式の証明方法を身に付ける。2点間の距離、内分点と外分点の座標、直線の方程式について理解する。	
	7	図形と方程式	11	円、軌跡と領域。 円の方程式、円と直線の位置関係を理解する。軌跡の方程式の求め方や、不等式、連立不等式の表す領域を図示できるようにする。	
	9	三角関数	14	弧度法と一般角、三角関数の性質・グラフ。 一般角、弧度法での角度の表現方法を理解する。三角関数のグラフやその周期性を理解する。	
後期	10	三角関数	14	加法定理。 加法定理を導き、適用できるようにする。2倍角の公式、半角の公式、三角関数の合成を理解する。	視聴覚教材を活用し、学習内容を理解しやすくする。 単元ごとに確認テストと解説を実施し、知識の確認と定着をはかる。
	11	指数・対数	14	指数関数。 指数法則において、指数を正の整数から実数まで拡張した場合の計算方法を理解する。 指数関数のグラフやその性質を理解する。	
	12	指数・対数	12	対数関数。 指数関数から対数の性質を導き、対数法則を理解する。 対数関数のグラフやその性質を理解する。	
	1	微分法	12	平均変化率と微分係数、導関数、接線の方程式。 平均変化率、微分係数、導関数の意味を理解し、求められるようにする。接線の傾きや接線の方程式を求められるようにする。関数の増加・減少、極大・極小を調べ、3次までの関数のグラフを描けるようにする。	
	2	積分法	13	不定積分、定積分。面積。 積分の意味を理解し、不定積分を求められるようにする。定積分を求められるようにする。定積分を応用した、面積の求め方を理解する。	
	3	復習とまとめ	11	数IIのまとめ。数学IIの総復習、演習	

3 評価の観点及び評価方法

評価は、次の3つの観点から行う。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・事象等を数学的に捉え、文字で表現し、方程式を解くなどの方法を身に付け、単に計算するだけでなく図やグラフをかいて計算量を減らすなどの工夫した処理ができる。 ・関数や指数対数、微積分の基本的な意味や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の解き方、表現の仕方に工夫がみられるか。 ・事象を数学的に捉え、数式やグラフで表現できているか。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への主体的に参加しているか。 ・数学的な見方や処理に関心をもって取り組んでいるか。

このため、具体的な評価の対象は次のものとする。(評価方法や評価のポイント)

- (1) 定期試験の実施 (2) 授業中に出す課題への取り組み方 (3) 長期休業中の課題や課題テストの実施